

『富山史壇』 第一九八号

二〇二三年（令和四年）七月 越中史壇会

史料紹介

立山・伊勢・西国道中記（下）

鈴木景二

立山・伊勢・西国道中記（下）

鈴木景二

（天保十一年〔一八四〇〕七月二十二日、新潟県津南町出発）

九月七日

一、拾貳文 宇治ノミむろ堂 十ばん

一、貳文 おふばくさん

一、壹文 たいごじ 女人堂

一、拾貳文 十一ばん だいごじ参銭

一、拾貳文 十二 岩間寺参銭

一、拾貳文 十三 石山寺参銭

一、六拾五文 大津宿 三河屋 木せん

一、五拾五文 米代

九月七日

べ銭百六拾八文 宇治より六リ半

八（九）月八日

一、拾貳文 大津 十四はん 三井寺参銭

一、四文 とふめかね（高観音望遠鏡）

一、壹文 からさき明神

一、貳文 坂本茶代

一、壹文 三玉様参銭（山王Ⅱ日吉大社）

一、壹文 ひゑ山申堂「どふ」

一、壹文 同御本堂

一、拾文 同さんせん

一、拾四文 わらじ

一、貳拾四文 やせ村中食

一、六拾五文 くらま宿 木せん

一、四拾文 米代

金壹朱両替仕候、四百貳十文

一、八文 くらま木のめつけ

九月八日

べ銭百八拾七文

九月九日

一、壹文 くらま毘沙門様参銭

一、壹文 牛若様けへこバ参銭（稽古場）

一、壹文 きふね明神

一、壹文 一原小町堂（補陀洛寺）

一、壹文 上ミかも

一、貳拾四文 中食

一、貳文 今宮

九月九日

一、五文 くわし

一、拾貳文 北野天神

一、貳拾四文 もち

一、百文 風呂敷壹まへ 京六角堂前ぬいものや方ニ而

一、八拾文 すへしやうじゆず（水晶数珠）

一、百八拾四文 扇子 中 十本

扇子代壹朱遣し六十四文つり受取、

一、百六拾四文 八文ツ、同 下 貳十本

両替、四百拾六文、

九月九日

〆錢六百拾貳文

九月十日

一、拾貳文 京六角堂 十八はん

一、三文 まんぢう

一、拾貳文 十九ばん かふ堂

一、壹文 ちおんいん 大かねあり

一、貳文 祇園社

一、百三拾七文 十九文みせ 扇子七本 十九文ツ、

一、三拾八文 竹はし 二十ぜん

一、六拾文 さかずき

一、四拾文 年徳神 かけじ（掛字）

一、壹文 日本二たいのかふしん

一、六文 おふむ 見錢

一、百五拾六文 清水 盃 二ツ

九月十日

一、貳拾四文 箱壹つ

一、壹文 ずへがふぼさつ

一、拾貳文 十六ばん 清水参錢

一、壹文 同奥院

一、拾貳文 十七ばん 六はら堂参錢

一、四文 くわし

一、五拾文 中食 御ぜん

一、拾三文 安内 中食分

一、拾貳文 十五ばん いま熊野

一、壹文 さんせん

一、壹文 三十三間堂参錢 大仏ノかねあり

一、九文 伊勢すず かず二十九

一、八文 くわし

一、百四拾八文 うしろい粉

壹朱両替仕候、四百貳十文

一、四文 東本願寺

一、四文 西本願寺

(貼付)

「京西本願寺御坪飛雲閣ノ間聞書キ

江州さめがいより出ル水あり、太閤様腰懸場、さづきの柱有、前二めのふ石あり、是より加藤清成朝せんせいばつの時太閤様へけん上のかたそて(誰が袖)の手水鉢有、菊のいの座敷、是より飛雲閣の間、したん・こくたんのとこふち、柱は天竺よりくだり候じやばくなり、御所の二ノ間たんにう盛信の筆あり、しやうけんの間かのふいへとくの筆あり、二條の院様の御筆のがくあり、太閤さま水風呂場、いざましの間、左り甚五郎が作あり、二かへ上だんの間かのふさんらくの筆あり。三十歌せん絵像なり、御とこへてんじやうさつまのやくすぎ、おとしがき(落懸)あらゝぎ、右の柱びんらうじ、左ノはしら唐つゝし、座敷の天井のすみ、とこにかすみのふじあり、是をぎやうぎのふじといふ、秀吉公、右かのふ本信筆なり、

とらの間拝見、聞書、

一、三、しろしゆいんの間、本信筆あり、左りちん五郎がほりあり、

四、御対面の間、長谷川 御筆、

一、五、御しやうたいの間、かのふ本信、なみの間、左り甚

五郎の作らんま、太閤御すわりの間」

一、百三拾九文 飛雲閣ノ間 尾ノ間両座敷 拝見料

四百貳十九文三ツ割ニテ

一、百ト八文 うしろい粉

金壹朱兩替仕候、四百二十貳文

一、拾貳文 くわし

一、六拾四文 安内銭

貳百文 三ツ割ニテ如此

九月十日

一、五拾八文 伊勢より荷物送銭 三百五十匁代

壹貫目百六十四文ノ割合

一、七拾文 はな紙入

一、四百文 京ぬいものやはたご払 二晩分

一、拾六文 まきがみ代

此日金三朱也

一、百八文 たにぐミ迄荷物送り代

九月十日

〆金三朱ト銭壹貫七百七拾五文

九月十一日

一、壹文 ミやうせんじ

一、壹文 おむろ

一、拾四文 もち

一、三拾貳文 すずり壹丁

一、壹文 さがノしやか

一、拾八文 けいさん

一、壹文 二尊院

一、拾四文 しんこ

一、八文 同

一、拾四文 わらし

一、五拾文 愛宕宿二而木せん

此日、上ノ長右衛門殿はらをやミ申候、

一、五拾三文 米五合代

九月十一日 京より三り

〆錢貳百拾五文

一、壹文 愛宕二而かわらけ代（土器投げ）

### 九月十二日

一、拾貳文 愛宕山參錢

一、拾五文 龜山城下二而もち

一、拾貳文 廿一ばん 丹波あなを參せん

一、拾貳文 廿ばん よしミね參錢

一、壹文 あを 光明寺（粟生）

一、四拾八文 あを宿 木せん

一、五拾六文 米五合代

九月十二日 あたごより九り

〆錢百六拾壹文

### 九月十三日

一、拾三文 わらし

一、拾五文 くわし

一、拾貳文 廿二ばん そふじ寺

此所二而、上ノ長右衛門殿大キニわづらへ申候、

一、拾貳文 廿三番 勝尾寺

一、壹文 ミのふ寺

一、六拾文 ミのふ宿木せん

一、五拾貳文 米五合代

九月十三日 あをより八り

〆錢百六拾九文

### 九月十四日

一、貳拾三文 くわし

一、拾貳文 廿四ばん 中山寺

一、三拾五文 もち

九月十四日

一、三文 西ノ宮蛭子參錢

一、六拾文 中食御ぜん

一、拾八文 もち

一、拾貳文 まや山 まやぶにん堂參錢

此佛前二錢かたのいづる手水はちあり

一、三文 まや山 ふもと茶代

一、拾四文 すし

一、百八拾四文 兵庫宿はたご払へ

九月十四日 ミのをより十二り

べ銭三百七拾貳文

同月十五日

一、壹文 清盛ノ墓 さんせん

一、壹文 すまのうら 綱引天神さんせん

一、拾六文 すまノうら すまてら開帳料

一、壹文 〃さんせん

一、壹文 あつもり様御墓

一、拾六文 あつもりそば

一、拾四文 もち

一、貳拾九文 御ぜん まんぢう共

一、九文 とふふ

一、壹文 あかし 人丸宮参銭

あかしの城下ニ忠度「ヌリ」さまノ御はかあり

九月十五日

一、三文 別符舟銭

此所手まぐらの松あり

一、壹文 大松原あり 天神へ参銭

一、拾四文 尾上ニ而もち 住吉あり

一、六文 梅干

一、三文 かき

一、壹匁 高砂船宿 つりや伊七郎 片はたご

九月十五日ノ夜乗出ス

一、拾壹匁 高砂より四国丸亀迄 上下船銭

むろつへ上ル約束ニ而のり申候

一、壹匁 蒲団料

べ銀拾三匁 両替四百貳拾文かへ

此所へ金壹分遣し、つり銭貳百拾七文返ル

為銭壹貫四百六十三文懸り申候

九月十六日夜舟ニ泊り申候

九月十七日四国讃州

一、四文 金毘羅様へさんせん 田中まち分

一、拾貳文 さんせん やす分

一、三拾六文 家内分

一、百三拾六文 〃金毘羅様参銭 拙者分

一、六拾文 丸亀城下 中ぢき

一、四拾八文 髪結へ

内十六文上ケかミ代

一、三文 へぎ

一、貳拾四文 中食

一、五文 くわし

九月十七日

一、三文 金毘羅様へさんせん

一、貳文 〃観音様参銭

一、六拾文 金毘羅ノ町 湯嶋や宿木せん

一、五拾文 米五合代

九月十七日



〆錢貳貫四拾貳文

〆十八日

一、拾三文 酒代

一、拾貳文 わらじ

一、貳文 善通寺參錢

一、壹文 七佛薬師參錢

一、壹文 弥谷參錢

一、壹文 屏風浦參錢

一、拾壹文 もち

一、貳拾四文 多渡津二而うどん

一、貳拾四文 御ぜん

一、八文 豆腐壹切レ

九月十八日

一、百七拾文 四国船宿 網や 御ぜん壹度「下」

金壹朱兩替仕候、長四百文

一、貳拾四文 なんばうどん

同十九日廿日ハ舟中ニ居申候、

一、四拾貳文 ミソ

九月廿一日

一、九文 備前瑜加山參錢

九月廿一日

一、四文 もち

一、五拾文 備前德利

一、長百文 〆かん徳利

金壹朱兩替仕候、長四百十文

一、拾壹文 酒代

一、三拾貳文 そば

一、長百貳拾文 あかふしんはま 片はたご（赤穂新浜）

九月十八日より廿一日迄

〆錢六百七拾五文

同月廿二日

一、貳拾五文 百文四人わり二而 くわん「花」あく寺

四十七騎「キ」ノ像開帳料

一、貳拾文 あかふ塩

一、三拾文 〆

一、長百五文 〆箱二ツ

一、八文 にしめ文

一、拾文 白紙五枚

一、拾六文 ちり紙代

一、拾文 わらじ

一、貳拾六文 赤飯

一、壹文 書写寺ノふもと女人堂

一、拾貳文 廿七ばん書写山 御本堂參錢

一、六拾文 西坂本宿 木せん

一、四拾貳文 米四合代

九月廿二日 あかふしんはまより九り

〆錢三百六拾七文

同月廿三日

一、六文 まんちう

一、拾六文 もち

一、六文 姫路 橋錢

一、七文 まんちう

一、貳文 そねノ松參錢

一、貳文 石ノほふでん參錢

一、拾壹文 わらし

五十文、上ノ長右衛門殿よりかり

一、六文 ぬい糸

一、拾貳文 廿六ばん 法花寺(一乗寺)

一、五拾文 法花寺坂本 木せん

一、四拾五文 米五合代

九月廿三日 書写より姫路へまわり 七リ半

〆錢百六拾七文

同月廿四日

一、拾貳文 もち

五十文、上ノ長右衛門殿へ返済

一、拾文 かき

一、四文 瀧ノ川舟錢

一、拾貳文 廿五ばん 清水參錢

一、三拾九文 松茸御ぜん

壹朱兩替仕候、四百二十文

一、八文 わらし

一、五拾五文 ふる市宿 木せん

一、五拾八文 米六合代

九月廿四日 法花寺より 十一リ

〆錢貳百六文

金壹朱ト貳百文、小左衛門殿へ取かへ

一、貳文 はし錢

同月廿五日

一、拾九文 かき

一、貳文 茶代

一、九文 わらじ

一、拾貳文 もち

一、三拾八文 あまづ村(天津) ゆらや佐兵衛 木せん

一、四拾三文 米五合代

九月廿五日 古市より 十一リ半

〆錢百貳拾九文

九月廿六日

一、拾八文 もち

一、壹文 内宮參錢

一、拾壹文 たんごう峠あり もち(普甲峠)

一、三拾貳文 きれとの文殊ノ前 でんかく

一、壹文 文殊様參錢



一、六文 橋立舟錢

一、拾貳文 廿八ばん たんご 成相參錢

一、三拾五文 符中ノ大垣宿木せん

一、六拾四文 米六合七夕代

九月廿六日 あま津より六リ半 外二御山十八丁登り

〆錢百八拾四文

九月廿七日

一、六文 橋立舟錢

一、四文 中山舟錢

一、八文 わらし

一、拾貳文 蒸いも少々

一、三拾五文 河原村宿 木せん

一、五拾七文 米六合六夕代

九月廿七日 成相より十リ半

〆錢百貳拾六文

同月廿八日

一、六文 松茸

一、拾貳文 廿九ばん 松尾寺參錢

一、壹文 高森様參錢(長泉寺)

一、五文 くわし

一、四文 おぼま 八百ひくの社參錢

一、三十貳文 中食代

一、四拾文 ひかさ村宿 木せん

一、六拾文 米六合六夕代

九月廿八日松尾ノかわ原より 十リ 但シ五十丁壹リ

〆錢百六拾四文

同月廿九日

一、貳文 ほふさか 茶代(保坂)

一、四拾五文 今津宿 木せん

金壹朱両替仕候、四百貳十文

一、七拾貳文 米六合六夕代

九月廿九日 ひかさより七リ半

〆錢百貳拾三文

十月朔日

一、三拾五文 をごり

一、拾貳文 三十ばん竹生嶋さんせん なげふだ

一、八文 舟せん

一、拾貳文 わらし

一、三文 茶代

一、壹文 うちをろしの地藏四十八たへ(打下)

一、五文 はし錢

一、六文 ゑび少々

一、壹文 かただらくがん參錢(堅田落雁||浮御堂)

壹朱両替仕候、四百二十文

一、百八拾文 かただ宿 はたご払

十月朔日

〆錢貳百六拾七文

十月二日

一、拾文 ふとんせん

一、貳拾四文 かミゆへ

一、六拾四文 片田より木濱へ十八丁舟錢

貳百五十四文、四人割二而如此

一、拾六文 いも茶代共

一、貳文 ゆず二ツ

一、壹文 八まん村 八幡様參錢

一、拾貳文 三十壹ばん 長命寺參錢

一、拾貳文 わらし

一、五拾文 じゃう樂寺村 木せん

一、六拾文 米六合六夕代

十月二日 片田より七リ

〆錢貳百五拾九文

十月三日

一、拾貳文 三十二はん くわんおんじ參錢

一、三文 くわし

一、三文 つづら町あり いも

一、五文 まんぢう

一、貳拾文 高宮 中食代

一、拾五文 高野二世つぎのくわんおんあり (永源寺)

一、拾五文 かき

一、五拾五文 いまづ宿 木せん (今須)

一、四拾四文 米五合代

十月三日 じゃうらく寺より十一リ

〆錢百六拾壹文

同月四日

一、貳拾文 もち

一、六文 白石舟錢

一、拾貳文 ミの谷汲參錢

一、四拾八文 白石宿 木せん

兩替四百拾六文

一、四拾八文 米六合代

十月四日 いまづより十一リ 内四リ五十丁

〆錢百三拾八文

十月五日

一、拾貳文 わらし

一、六文 しらいし 渡し錢

十月五日

一、三文 かき

一、拾貳文 柏原さかいや ミそ汁

兩替四百貳十文

一、五文 くわし

一、四文 さけ少々

一、拾文 米原 磯部九兵衛方二而荷物藏敷代 (荷持預け)

一、四拾八文 さめかへ宿 木せん

一、八拾壹文 米九合

十月五日 白石より米原へ行二リ、戻りさめがい迄十三リ半

〆錢百八拾五文

十月六日

一、拾五文 もち

一、貳拾四文 切りもぐさ千丁

一、拾文 極上之もぐさ

一、貳文 ゆず壹ツ

一、貳拾四文 赤坂 中食

一、六文 舟錢

一、八文 がうど 舟錢

一、六拾四文 かのお宿 木せん

一、五拾八文 米六合六タ

十月六日 さめがいより十一リ半

〆錢貳百拾九文

同月七日

一、八文 うぬま中食

一、貳拾三文 木川舟錢

十月七日

一、拾文 わらし

一、四拾八文 三長ケ 木せん（御嵩）

一、四拾八文 米五合

十月七日 かのおより十里

〆錢百四十壹文

同月八日

一、八文 ミのゝ国名物 きづ葉り

一、三拾貳文 ゆす十貳

一、五文 かき壹ツ

一、貳拾文 わらし壹束

一、五文 かき

一、六拾四文 大井村 木せん

一、五拾七文 米六合

十月八日 三丈ケより八リ

〆錢九拾壹文

同月九日

一、貳文 秋葉椽參錢

一、四文 にしめ

一、四拾九文 まごめ峠赤飯

一、拾六文 わらし

一、百三拾八文 のじり宿 はたご払

十月九日 大井より十リ半

〆錢貳百拾三文

同月十日

一、三拾貳文 まごめ峠 てんびんぼふ

壺朱両替仕候、四百拾貳文

一、壹文 山なし

一、拾六文 もち

一、百三拾貳文 やごはら 大津たや はたご銭

十月十日のじりより十一日

〆錢百八拾壹文

十月十日

一、百文 ミねばりの三まへくし 壹組

一、四拾文 ひへらぎまがへ 壹組

一、六拾四文 お六四まへ十六文ツツ (お六櫛四枚)

一、百七拾貳文 三まへくし六組

一、四拾八文 女くし 六まへ

一、貳拾四文 〃くし 六まへ

一、五拾文 〃くし 拾まへ 五文宛

一、拾五文 びんくし 三まへ

一、百文 女くし 六まへ

一、五拾四文 女三まへくし 壹組

十月十日

〆六百七拾九文

壹朱也両替仕候、四百拾六文

同月十一日 朝、高山ニ雪見へ申候、

一、拾四文 わらし

一、拾貳文 にしめ

一、拾六文 ぞふに

一、百拾貳文 村井宿 大つたや定兵衛

十月十一日村井より松本迄一り半 やぶはらより九り半

〆錢百五拾四文

十月十二日

一、貳文 まぎ紙

一、拾七文 くわし

一、貳拾文 かじ原中食

一、百拾貳文 うミ村 はたご払へ (麻績)

十月十二日 村井より十り半

〆錢百五拾壹文

同月十三日

一、六文 猿ヶ馬場峠餅

一、貳拾文 〃峠ノ下夕餅

一、八文 にしめ

一、五拾文 丹波嶋舟錢

一、五文 荻かや堂開帳料

一、貳文 善光寺様参錢

一、八文 とふからし

一、貳拾四文 かミゆへ

一、拾六文 あんま

一、三文 御本堂

一、三文 くわし

一、八拾八文 をごり酒肴代

一、百六拾四文 善光寺藤屋宿払へ

十月十三日夜 うミより七リ

〆錢四百九文

十月十四日

一、金三分也、善光寺小升やより上ノ長右衛門殿世話ニ而か

り申候、内三朱也同月同日返済仕候

全ク借金式分壹朱也、借用仕居申候、

是ハ丑四月、元利共返済仕候

同月十四日

一、金壹朱錢貳百文 うしろ小左衛門より受取済

此時有金貳分貳朱ト錢貳百文御座候

一、銀貳匁九分 上手拭式筋

同月十四日

一、〃貳匁貳分 腰帶壹筋

一、〃六匁三分六厘 白木綿 壹丈貳尺

一、〃壹匁 手拭壹筋

一、錢貳百七拾貳文 〃三筋 八十八文宛

一、銀壹匁貳分 扇子 拾貳本

一、百三拾四文 輪元結二丁 善光寺小舁やより買申候

同月十四日

〆銀拾三匁六分六厘 四百拾文

此金壹分ト錢貳百五拾六文 両かへ八百四拾貳文

十四日

一、貳百拾文 善光寺二而 白たび 壹束

一、〃(十四日) 八拾五文 〃 かふかけ 壹束

一、〃貳拾六文 〃 すきくし 壹まへ

一、〃三拾文 〃 ゆふしはし 三十ぜん

一、〃四文 〃 あめ

一、〃九文 〃 まんぢう

一、〃貳拾四文 〃 くわし

一、〃貳百ト六文 〃 福嶋たばこ入 数拾八

一、〃六拾文 〃 はし四十ぜん

十月十四日 善光寺二而

一、拾六文 唐からし四袋

一、百文 砂糖ノミツ

一、拾貳文 砂糖

一、金壹朱也 唐詩選 素読本

一、金壹朱也 古文式冊

一、銀貳匁 孝経壹冊

〆金貳朱ト錢貳百三拾三文

一、百六拾四文 ふじ屋 宿払へ

十月十四日 逗留仕候

〆金壹分貳朱 壹貫四百五十壹文

同月十四日 夜改申候

手元ニ錢百七拾八文御座候

(貼付。土産送状写)



「覚『梟 キヤウ ハハクイドリ フクロウ』

一、手拭 壺筋

御はらへ

菓

神教丸壺袋 十粒位イ

さじ 壺本

扇子 壺本

ベ 右 小岡伊勢参り土産物

高橋吉太郎様」

### 同十五日

一、四拾六文 たば入二つ タバコ入れ

一、三文 朝さんせん 善光寺

一、拾文 わらし

一、八文 にしめ

一、拾文 とふふ

一、百貳拾四文 戸狩村宿 善太郎宿払へ

十月十五日 善光寺より十里

ベ貳百ト五文

### 同月十六日

一、拾文 わらし

一、拾四文 中食あじ

十月十六日

一、八文 横倉 わらし

一、拾五文 反り くわし

一、五文 菩提寺 さんせん

十月十六日

ベ五拾貳錢

十月十六日ノ夕方帰宅仕候、錢貳拾壺文あまり申候、

日数 都合八十三日懸り申候

惣ベ金壺兩ト三拾壺貫貳百貳拾四文

為金五兩三分貳朱ト錢貳拾四文

錢八九六ニ而勘定仕候、

兩替六貫四百文

### 【出発・帰宅時の支出】

七月廿二日出立之時

一、錢三十九文 酒三合

一、金壺分錢百文 嶋壺反

はんでん・じばん仕候、

ベ金壺分ト錢百三十九文

帰宅之時、後送り諸懸り覚

十月十七日ノ夜

一、蕎麦粉三斗貳升 夕飯

代壺貫貳百拾六文 但シ米直段ニ而

一、米三斗貳<sup>(マメ)</sup>三升 酒米 米麴 甘酒共

代壺貫貳百五十四文



一、粳米三斗貳升 但シ夜食・昼共

代壹貫貳百拾六文

一、餅米五升 朝をはぎ

代百九拾文

一、大豆二升三合 豆腐・煮豆メ共

代百文、外二とふ仕ちん三十文、

一、小豆壹升 をはぎ分

代三拾五文 位イ

一、味噌 親碗ニ貳拾杯余

代八百文 位イ

省メ四貫八百四拾壹文

二口メ金壹分四貫九百八拾文

為金壹兩ト錢百八十文

外ニ土産者

手拭 貳反 江戸ち取寄置 但シ手拭八筋

代金貳朱貳百三十六文

扇子 壹箱上 江戸ち買寄置 拾本入

代貳百六拾八文

手拭壹反 芦ヶ崎ち取寄ル (津南町)

代八百文

### 【持参金之覺】

一、金四兩貳分也 親父ち預り

一、〃三朱ト錢四百文

一、〃壹分也 是ハ高野山へ上ケ申トテ母ち預り

一、〃貳朱也 おやす養母ち錢別ニ貫

一、錢三百文 親父ち預り

メ金五兩壹朱ト錢七百

(貼紙。以下は※以下十三行分の訂正)

「外ニ

十月十四日

金貳分壹朱ト錢百文

此ノ四百三十貳文

上野長右衛門殿世話ニ而善光寺小升や長吉殿ち借用仕候、

メ貳分壹朱ト五百三十貳文

丑四月十四日ニ元利共返済仕候

メ金五兩貳分貳朱ト錢八百文

外ニ金壹兩ト錢百八拾文

出立支度・帰宅後送り品懸り

皆メ金六兩貳分貳朱ト錢九百八拾文 諸懸り

内壹兩貳分壹朱ト錢三拾文 錢別ニ而貰ひ申候、

残而全クノ遣へ

金五兩壹朱ト錢九百五拾文

諸金五兩三朱ト錢百五拾文

※外ニ

金壹兩ト錢百八拾文

出立支度・後送り懸り共諸懸り

二口 〆金六両 壹朱ト八百八拾文

内 壹両貳分 壹朱ト三拾文引 錢別二貫候分、

残而金四両貳分ト錢八百五拾文

為金四両貳分貳朱ト錢五拾文

外 二金貳分 壹朱ト錢百文

此ノ四百三十貳文

上野長右衛門殿世話ニ而善光寺小升長吉方と借用仕候、

〆貳分 壹朱ト五百三十貳文

丑四月十四日、返濟仕候

惣 〆金五両三朱ト錢百五拾文 諸懸り

【家籠リノ外親類中へ土産「トサン」物覚】

一、風呂敷小 村 善右衛門

扇子 貳本

福嶋たばこ入 壹ツ

神教丸 壹袋 五粒

五ふく茶

〆

一、手拭 壹筋 太兵衛

扇子 壹本

福しま 壹ツ

神教丸 壹袋 五粒 ツツ

茶

〆

一、手拭 壹筋 喜助

扇子 壹本

福しま 壹ツ

しんきやうぐわん 五粒 ツツ

〃 (茶)

〆

一、手拭 壹筋 与助

扇子 壹本

福しま 壹ツ

しんきやうぐわん

〃

〆

一、手拭 壹筋 弥左衛門

扇子 壹本

福しま 壹ツ

しんきやうぐわん

〃

〆

一、手拭 壹筋 六兵衛

扇子 壹本

福しま 壹ツ

しんきやうぐわん

”

✕

一、手拭壺筋 勝五郎

扇子壺本

ふくしま 壺つ

しんきやうぐわん

”

✕

一、手拭壺筋 孫治郎

扇子壺本

ふくしま 壺つ

しんきやうぐわん

”

✕

一、手拭壺筋 文七

扇子壺本

ふくしま 壺つ

しんきやう丸

茶

✕

一、手拭壺筋 宇平治

扇子壺本

ふくしま 壺つ

しんきやうぐわん

”

✕

一、扇子壺本 茂左衛門

ふくしま 壺つ

しんきやうぐわん

”

✕

一、扇子壺本 直七

ふくしま 壺つ

しんきやう丸

”

✕

一、扇子壺本 長治郎

ふくしま 壺つ

しんきやう丸

”

✕

一、扇子壺本 宇左衛門

はし 三つ

しんきやう丸

”

✕

一、扇子壺本 彦右衛門

はし 三せん

しんきやう丸

茶

ズ

一、扇子壺本 傳左衛門

はし 三せん

しんきやう丸

茶

ズ

一、扇子壺本 勘右衛門

はし 三せん

しんきやう丸

茶

ズ

一、扇子壺本 孫次右衛門

はし 三せん

しんきやう丸

茶

ズ

一、風呂敷 七十五文 小岡 孫治右衛門

あかふ塩 一箱 (赤穂)

青柳茶

扇子 上 貳本

石のけいさん 御はらへ (お祓 神宮お札)

ズ

一、扇子貳本 〃重左衛門

たばこ入壺ツ

茶 少々

外二

手拭壺筋 御はらへ

あさままんきんたん 十六粒入壺袋 (朝熊万金丹)

ズ

一、風呂敷 七十五文 小池 喜右衛門

あかふ塩 壺箱

青柳ノ茶

扇子 上 貳本 御はらへ

ズ

一、風呂敷 代百文 延命寺

箱入茶 代百文

扇子 上 貳本

おしろい粉

ズ

一、おしろい粉 隠寮

青柳茶

扇子 壺本

一、風呂敷 代百文 芦ヶ崎 龍昌寺

箱入茶 百文

扇子 上 貳本

やふじ 箸拾せん

盃 壺ッ 御はらへ

一、風呂敷 ヌ太郎右衛門

扇子 貳本

あかだま

茶 御はらへ

一、風呂敷 ヌ半左衛門

扇子 貳本

しんきやう丸 御はらへ

茶

一、風呂敷 七郎右衛門

扇子 貳本

あかだま

茶 御はらへ

一、風呂敷 太郎左衛門

盃 壺ッ 御はらへ

一、風呂敷 押付 佐七

せん子 貳本

しんきやう丸

茶 御はらへ

一、せんす 貳本 上野△合印 太三治

ふくしま

しんきやう丸

茶 御はらへ

一、風呂敷 田中 庄左衛門

扇子 貳本

薬師丸 御はらへ

一、ふくしま ヌ勝右衛門

はし三

しんきやう丸 御はらへ

一、ふしま ヌ要左衛門

はし三

しんきやう丸 御はらへ

一、ふしま 〃傳助

はし三

しんぎやう丸 御はらへ

ズ

王倉勘左衛門義ハ同年父妻兩人參宮仕候間、取やりなし

一、ふしま 赤沢 名左衛門

扇子式本

しんぎやう丸

はし三 御はらへ

ズ

一、手拭沓筋 谷内 庄左衛門

扇子上 式本

茶 御はらへ

ズ

一、手拭沓筋 志久見 善右衛門

あかふ塩 沓箱

扇子式本

あさま萬金丹沓袋

御はらへ

ズ

一、風呂敷 北原 新右衛門

しんぎやう丸

扇子

はし五せん

茶 御はらへ

ズ

一、手拭沓筋 〃源兵衛

扇子

しんぎやう丸

茶 御はらへ

ズ

一、手拭沓筋 寺石 与三右衛門

扇子

しんぎやう丸

茶 御はらへ

ズ

一、扇子式本 又四郎

ふくしま

はし三 御はらへ

ズ

一、扇子式本 上野△合印 大工利吉

ふくしま

はし三 御はらへ

ズ

一、扇子式本 向小池孫次右衛門



ふくしま

はし三

×

【家籠り親類中ら餞別貰へ覚】

一、餞別金貳朱也 上のおやす

一、貳百文 村 善右衛門

一、貳百文 喜助

一、百文 おまん はばさ

一、貳百文 勝五郎

一、貳百文 文七

一、五拾文 彦右衛門

一、三百文 六兵衛

一、貳百文 宇平治

一、貳百文 弥左衛門

一、貳百文 与助

一、貳百文 太兵衛

一、貳百文 孫治郎

一、百文 宇左衛門

一、百文 長治郎

一、百文 喜三治 まつ

一、五拾文 傳左衛門

一、五拾文 忠左衛門

一、五拾文 孫治右衛門

一、百文 うしろおしを しんがへ餞別

一、五拾文 長右衛門

一、五拾文 三右衛門

一、三拾文 勘右衛門跡この

一、貳百文 吉兵衛

一、百文 田中 要左衛門

一、餞別金貳朱也 〃(田中) 庄左衛門

角茶壺ツ

跡見舞之儀ハ御同人様同道参宮、依之為替仕候

×

一、錢貳百文 〃政右衛門

平茶壺ツ

跡見舞之儀ハ右同断

×

一、貳百文 〃勝右衛門

赤飯壺櫃 跡見舞

から蕎麦壺升

×

一、貳百文 〃傳助

一、百文 〃清七

一、百文 〃太三治

芦ヶ崎

一、餞別金貳朱也 龍昌寺

扇子一

✕

一、〃貳百文 太郎右衛門

赤飯壺櫃 跡見舞

蕎麦粉壺袋

✕

一、錢別貳百文 芦ヶ崎 太郎左衛門

赤飯壺櫃 跡見舞

角茶壺つ

✕

一、〃貳百文 〃半左衛門

赤飯壺櫃 跡見舞

角茶壺ツ

✕

一、〃貳百文 〃七郎右衛門

赤飯壺櫃 右同断

蕎麦粉壺袋

✕

一、〃貳拾文 〃嘉左衛門

一、錢別錢三百文 延命寺

蕎麦粉三升 跡見舞

✕

一、〃百文 隠寮

一、〃百文 反り 平助

くわりん二つ

一、錢貳百文 小池 喜右衛門

平茶壺ツ

麦粉壺袋

赤飯四重 跡見舞

✕

一、〃貳百文 谷内 庄左衛門

一、〃貳百文 赤沢 名左衛門

たばこ 壺わ

✕

一、〃百文 押付 佐七

平茶壺ツ

赤飯壺櫃 留守見舞

一、〃三百文 小岡 孫次右衛門

赤飯大壺櫃 留守見舞

✕

一、〃貳百文 重左衛門

平茶壺つ

✕

一、〃貳百文 上野 大工利吉

一、〃貳百文 太三治

平茶壺つ

✕

一、〃百文 上ノ小池 孫治右衛門

一、錢別百文 寺石 与三左衛門

一、〃貳百文 志久見 善右衛門

角茶壺ツ

野菜壺包

蕎麦粉二袋 留守見舞

✕

一、〃貳百文 信州北原 新右衛門

赤飯壺櫃 留守見舞

蕎麦粉壺袋

やさい壺つと

✕

一、〃百文 北原 源兵衛

蕎麦粉貳袋 留守見舞

✕

惣✕金壺分貳朱錢七貫六百三拾文

為金壺両貳分三朱ト錢三拾文 両替六四二而

(貼付)

「弘化三年三月、村小右衛門殿本山参りニ行候時、土産物之義錢別帳ニ委ク御座候、」

錢別返済方之義ニハ錢別帳ニ委シク御座候、

京ノ三十三間堂

頭津「づつ」山へ（頭痛病）いゆふ（癒える）寺と申也、づつふおふくやミ候人ハ、正月十五日ノかゆをたべ不申候と立願仕候得ハ、づつふやミ（病み）不申候事、奇妙也、

(終わり)

〔追記〕

① 土産物リストに頻出する「しんきやうぐわん」「神教丸」

「あかだま」は、中山道の鳥居本宿（滋賀県彦根市）の有川市郎兵衛の漢方薬「赤玉神教丸」。『木曾路名所図会』（卷一坤）などに紹介されている。

② 本史料に類するものとして、次の史料がある。

『柴屋文書 その三 道中日記帖』新湊古文書に親しむ会、二〇二〇年（射水市新湊博物館で販売）。天保十三年（一八四二）二月、新湊の柴屋彦兵衛らが西国、日光、江戸を旅した道中記。